

「電子書籍交換フォーマット普及促進会議成果発表会」報告

開催概要

【正式名称】経済産業省「平成22年度書籍等デジタル化推進事業」「電子書籍交換フォーマット普及促進」成果発表会

【日時】2012年2月20日(月)午後1時30分～3時30分

【場所】如水会館 スターホール

【対象】電流協会員及び一般 (参加無料)

【主催】一般社団法人 電子出版制作・流通協議会

【参加者数】

事前申し込み総数 191名 当日出席者数 166名(確認分)

会員社 37社 79名 非会員社 71社 84名 行政 3名(経産省 2名、総務省 1名)

マスコミ 4社(日本経済新聞社、文化通信、読売新聞、新聞之新聞)

(主な参加社)

・暁印刷・アライド・ブレインズ・イースト・岩波書店・印刷工業・NTTデータ・大阪書籍印刷・オーム社・大村紙業・開拓社・カシヨ・学研HD・角川書店・角川グループパブリッシング・紀伊國屋書店・キャノンITソリューションズ・共同印刷・共立印刷・暮らしの手帖社・栗田出版販売・研究社印刷・廣済堂・コニカミノルタBT・三晃印刷・三省堂・三美印刷・小学館・新生紙パブル商事・新聞之新聞社・数研出版・西東社・清文堂印刷・税務経理協会・大修館書店・大日本印刷・東芝・図書印刷・凸版印刷・豊国印刷・永岡書店・日本IBM・日本医事新報社・日本印刷産業連合会・日本漢字検定協会・日本経済新聞社・日本経済新聞出版社・日本出版インフラセンター・日本評論社・日本法令・日本ユニシス・日本ユニ著作権センター・野村総合研究所・萩原印刷・プレジデント社・文化通信社・文理・みすず書房・三菱総研DCS・三菱電機インフォメーションシステムズ・メヂカルフレンド社・menue・ヤマハミュージックメディア・マエダ印刷・有斐閣・富士ゼロックス・ヤマハ・昭和ブライト・ベネッセ・ビットウェイ・東急エージェンシー・日本出版取次協会・TAC出版・読売新聞・モバイルブックジェーピー・pod出版・出版デジタル機構(準備組織)・シャープ・ポイジャー・日本電子出版社協会

【発表者】

・調査ワーキンググループ報告

矢口博之(東京電機大学)

・運用ガイドラインワーキンググループ報告

田原恭二(凸版印刷) 吉田正紀(大日本印刷)

・構文チェック手法検証ワーキンググループ報告

花田恵太郎(シャープ) 小池利明(ポイジャー)

【当日配付資料】

・交換フォーマットの概要

・調査ワーキングチーム報告

・運用ガイドラインワーキングチーム報告

・構文チェック手法検討ワーキングチーム報告

開場の様子



シンポジウム内容

- (1) 主催者挨拶
電子出版制作・流通協議会 植村八潮座長



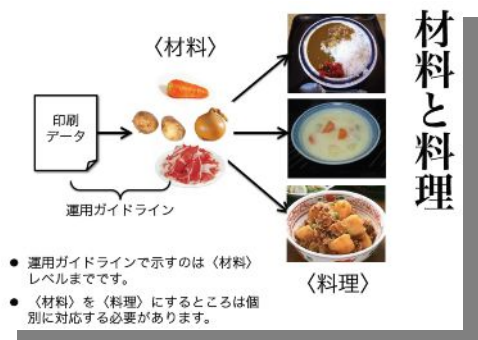
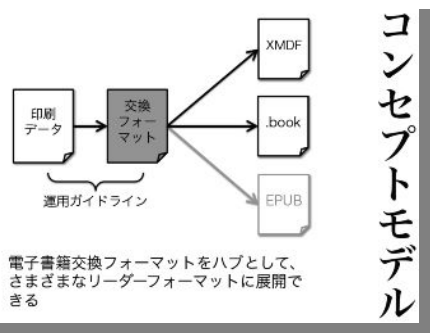
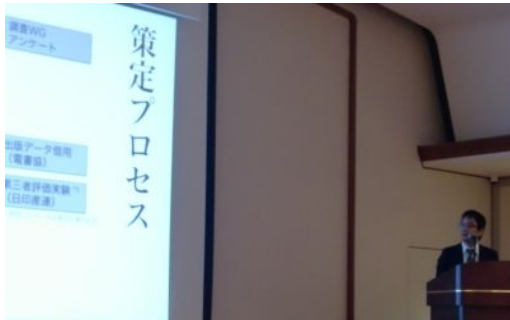
- (2) 主賓ご挨拶
経済産業省商務情報政策局 文化情報関連産業課 望月課長補佐



- (3) 成果発表
調査ワーキングチーム報告 矢口博之（東京電機大学）



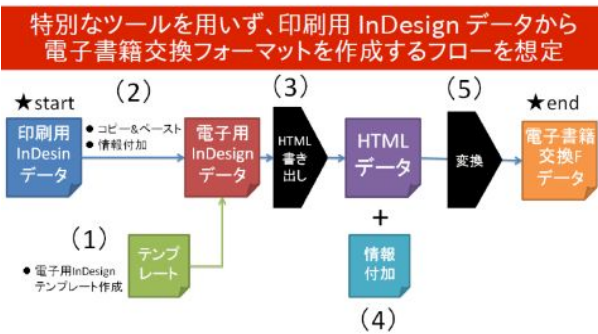
運用ガイドラインワーキングチーム報告 田原恭二（凸版印刷）



吉田正紀（大日本印刷）



1. 運用ガイドラインで想定するワークフロー



構文チェック手法検証ワーキンググループ報告

花田恵太郎（シャープ）



1. 構文チェックの取り組みについて

■実施目的

電子書籍交換フォーマットに従って作成されたファイルについて

- ・ 正しい構文で書かれているかの構文チェック手法
- ・ 変換する際に問題となりうる箇所がないかについての構文チェック手法

を確立し、ファイルが正しく作成されていることを容易に確認できるような基盤整備を図る。

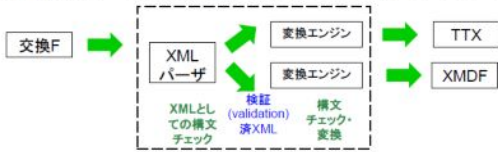
■期待される効果

正しい構文で作成される

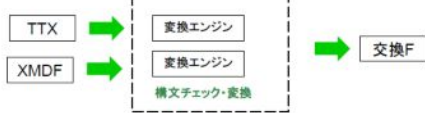
- ➡ 電子書籍交換フォーマットの利用価値の向上
- ➡ 普及促進

検証用構文チェックツールの動作

■電子書籍交換フォーマットからの変換時・・・XMLとしての構文チェックを行い、構文が正しければ、選択されたフォーマットに変換。削除される機能についてのエラーメッセージを出力。



■TTX/XMDFからの変換時・・・入力フォーマットを交換Fに変換。



小池利明（ボイジャー）



6. 成果 -1

1. 構文チェック手法の方向性の確立
 構文チェック手法について、コンテンツ作成者にとって有益なものとするための方向性が、今回の実証を通じて確立できた。

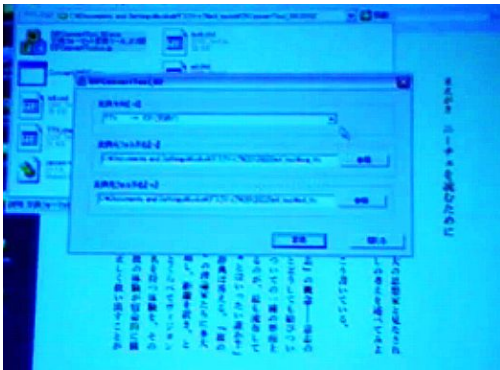
(1) 構文チェックを行なった結果得られた情報のレベル分け

構文チェックの結果得られた情報については、ユーザ側で対処が必要な、重要性の高いものもあれば、必ずしもそうでないものもある。したがって、以下の例のように、何らかのレベル分けを行うことは有用と考えられる。

■レベルの定義（交換F→TTX 変換で試験的に実装したもの）

レベル	内容
0	問題なく変換できるもの（ログ出力はしない）
1	変換先フォーマットにない機能のため、表現が欠落するもの
2	変換先フォーマットにない機能のため、表示に違いが出るもの
3	表示や機能には影響しない記述
4	TTXへの変換は可能だが、非推奨あるいは廃止、廃止予定の機能
5	TTXへの変換は可能で、PCでは有効だが、スマートフォン等で無視される機能
A	代替表現(後述)となっているもの

*交換F→XMDF変換時にも、レベル分けの基準はやや異なるが同様の分類を行っている。



変換プログラムの実演